日蓮宗

令和７年
秋号

妙傳寺だより

法　雨

・秋季彼岸会法要
・はじめてのご遺文『諸法実相抄』
・日蓮聖人御入滅報恩会式

感應山
妙傳寺

秋季彼岸会施餓鬼法要

９月２３日（火）　秋分の日

午後２時より

法要当日に読み上げ供養もさせていただきます。

別紙に記入の上、お申し込み下さい。

受付時間…午前８時～午後１時まで

法要当日は、納骨堂でのご回向も受け付けております。

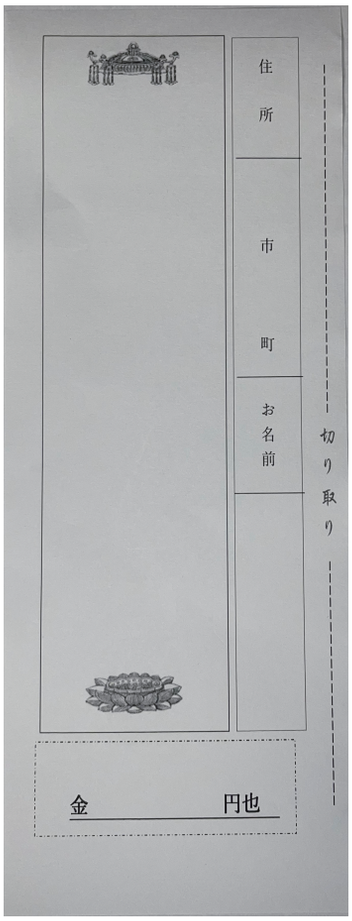
御斎…正午より１時半まで

ご参詣の皆様に昼食をご用意しております。

ご家庭回向（棚経）　９月14日～26日にご自宅にお伺い致します。日割りについては、別紙記載をご確認下さい。

供養紙について

秋季彼岸案内に彼岸専用供養紙を配布しております。線に沿って切り取り、枠内に戒名、又は、〇〇家先祖代々と書き入れ、供養料とともに、九月二十三日（火）までに受付にお渡し下さい。



はじめての御遺文

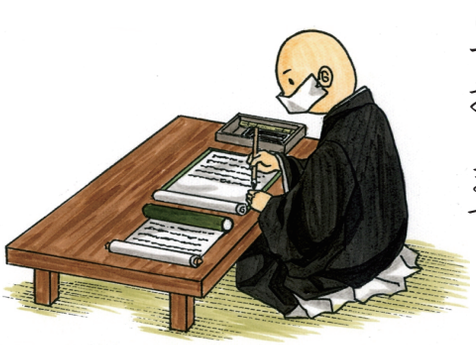
はじめての御遺文第二回は『諸法実相抄』の末文です。『妙法蓮華経　方便品第二』に説かれる諸法実相（悟りの真実）について書かれた御遺文です。

第二回　『諸法実相抄』

「一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給え。あいかまえてあいかまえて信心つよく候いて、三仏の守護をこうむらせたもうべし。行学の二道をはげみそうろうべし。行学たえなば仏法はあるべからず。我もいたし人をも教化そうらえ。行学は信心よりおこるべく候。力あらば一文一句なりともかたらせ給うべし。」

右記のご遺文は、「この世界において第一である御本尊を信じなさい。信心を強くして三仏の守護を受けていきなさい。行学の二道に励みなさい。行学が絶えてしまえば仏法ではなくなるからである。自分も行い、人にも教えていきなさい。行学は信心から起きてくるのである。力あるならば一文でも一句でも人に語っていきなさい。」という、日蓮聖人が法華経・お題目を弘める為の心構えを説いたお言葉です。「信・行・学」の三つを大切にしていく事が、私たちが心豊かに生きていく為に必要なことであると示しております。

このご遺文には信心を持つ事で行学が起きるとありますが、逆もまた然りで、行学を実践する事で信心を持つこともできます。信と行学は二つで一つであり、多くの僧侶も自分に戒める為にこのご遺文を拝読します。皆様も是非お仏壇に手を合わせる際はお読みください。🙏



日蓮聖人御入滅報恩会式

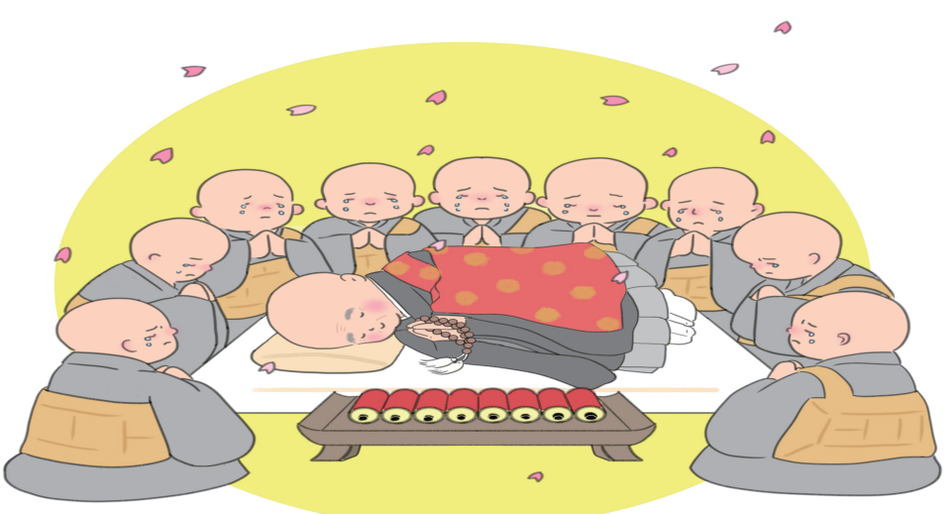
十月十二日（日）　十七時～　御逮夜　高座説教

十月十二日（日）　十八時～　日蓮聖人御入滅御逮夜法要

十月十三日（月）　八時～　日蓮聖人御入滅正当法要

御会式とは

日蓮聖人御入滅報恩会式は通称「御会式」と呼ばれ、一二八二年十月十三日に御入滅された日蓮聖人を偲び、報恩感謝を捧げる法要です。

御会式に桜を飾る理由、日蓮聖人が池上（東京都大田区）の地で入滅された際、逗留されていた館の庭の桜が花を一斉に咲かせた事が由来となり、今に伝わっております。

また、秋から咲き始める桜「御会式桜」といいます。